夏休み催し物について

夏休みも終り、いよいよ秋の行楽シーズン到来、夏バテもなく社員一同皆様の再来をお待ち致しております。

夏休み催し物について報告いたしたいと思います。

昨年に引続き夏休みの催し物として、特に今年はサマースクールを開校致しました。1日30名に限定しましたが、毎日熱心に通校した人たちが20名位いました。午前10時から11時まで学科、11時より12時まで実技に分けて指導致しましたが、実際にお魚の給餌や、シャチ、イルカの訓練方法などで、動物を目前にした受講生達は非常に興味深く熱心に研究し海の生物に関してのすべてを吸収されて夏休みの校外指導として100％の成果が上ったと確信されます。

実施された講議内容は次の通りです。

日付	内容		担当	氏名
8月1日	魚と海獣の違い	指導	魚類係	木村栄司
2日	海獣と魚の違い	〃	海獣係主任	清水　宏
3日	魚の一日	〃	魚類係	金銅義隆
4日	イルカの話し	〃	海獣係	祖一　誠
5日	魚の呼吸	〃	魚類係主任	高鍋光治
6日	アシカの話し	〃	海獣係	中里伊三郎
7日	魚の睡眠	〃	魚類係主任	高鍋光治
8日	シャチの話し	〃	海獣係	中里伊三郎
9日	魚の形態	〃	魚類係	水嶋健司
10日	海獣の知能	〃	海獣係	中里伊三郎
11日	魚の産卵	〃	魚類係	金銅義隆
12日	海獣の感覚	〃	海獣係	中里伊三郎
13日	魚の感覚	〃	魚類係主任	高鍋光治
14日	海獣の病気	〃	海獣係	平塚賢司
15日	魚の病気	〃	魚類係	水嶋健司
16日	イルカのトレーニング	〃	海獣係	藤岡博次
17日	魚の食事	〃	魚類係	木村栄司
18日	アシカのトレーニング	〃	海獣係	中里伊三郎
19日	魚と海獣の違いまとめ	〃	魚類係主任	高鍋光治
20日	海獣と魚の違いまとめ	〃	海獣係主任	清水　宏

受講生の中には大人の方も子供達と一諸に受講されていた日もあり知識を新にされていた。

授業中には熱心にメモを取り、時に指導員もたじたじする質問を浴びせたり、真剣に授業を受けている姿を見て、非常に充実したサマースクールであったと思います。

次年度の反省計画として教室を広く多数の参加者が受講出来る様な、そして夏休み中のお子様方が研究の場として鴨川シーワールドを広く活用出来る様に努めたいと思います。

三周年記念行事ご案内

鴨川シーワールドは、昭和45年10月1日、日本で初めて飼育したシャチの豪かいで楽しいショーを中心にその規模、内容共に世界最大級の《総合海洋レジャーセンター》として皆様から親しまれてまいりました。

お蔭をもちましてこの10月にはオープン三周年を迎えるに至り、皆様方の日頃のご愛顧に感謝申し上げるとともに、下記内容にてオープン三周年記念行事を行なうことと致しましたのでご案内申し上げます。

☆とき　昭和48年10月1日より同月末日まで

☆ところ　鴨川シーワールド（海洋レジャーセンター）

☆内容

1．展示　“イルカと三つの夢”
   ①　おさかなを守るイルカづくり
   ②　イルカとの対話
   ③　海中居住の応用（海の中の道案内）
   楽しい夢をパネルとオシログラフによってえがき出します。

2．よい子に海獣バッチのプレゼント
   期間中にご入園のよい子にもれなくプレゼントします。

3．お土産三点セット《3割引》大特売
   ご好評いただいているお土産品三点セットを用意致します。見本の中からお好みのものをお買上げ下さい。（10月中の休日のみ）

4．アオウミガメの放流　10月14日(日)12時より
   水族館で飼育中のアオウミガメ5～6頭を龍宮城へかえしてあげます。学術研究の手助けをしてもらうため標識をつけてもらって……。

表紙説明

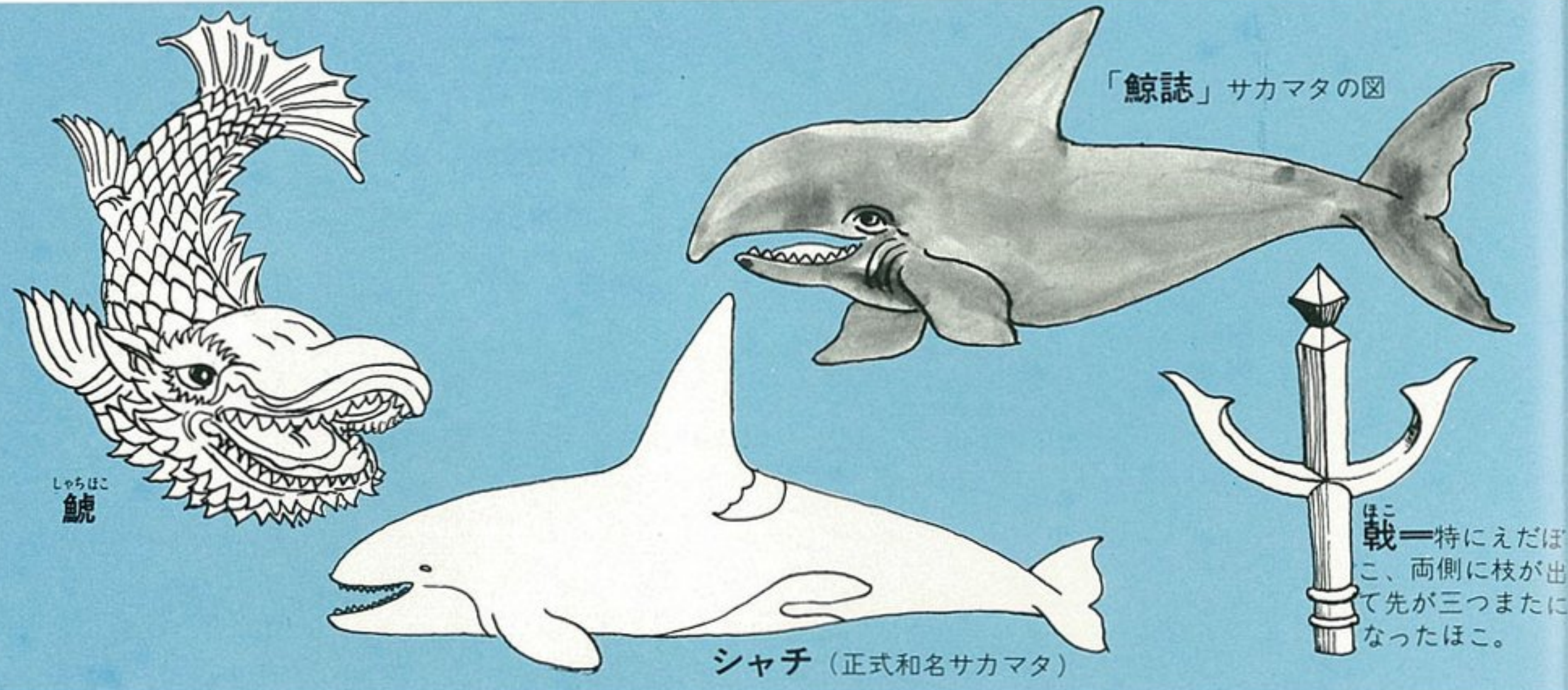
シャチの歯

鯨の仲間には、口の中に歯をもった鯨と、ヒゲ板をもった鯨があり、歯をもった鯨の代表的なものには、マッコウクジラ、シャチ、イルカの仲間があります。

これらの鯨の歯は、全て犬歯で、先はとがっていて、そのはたらきは、敵を攻撃する為の牙として使うのではなく、餌をつかまえる為のホークのような役目をしています。つかまえた餌は、全て丸のみにするのでかみくだく為の臼歯はもっていません。

シャチは、長さ10～13cmの、スベスベした、や・卵形の歯を上下顎あわせて40～52本もっています。この歯をみていると、さしも、大きな鯨でもくいちぎられてしまうのもあたりまえだとつくづく感じる事があります。

さかまた

生物の豆辞典　1973・9　No.3

「シャチ」と「シャチホコ」

「シャチ」といえば、すぐに昔から広く知られ、有名なお城の屋根の上にある「シャチホコ」を思い出す人々が多く、そして、海にすむ哺乳動物である「シャチ」と「シャチホコ」とは、同じ動物であると考えている人々も多いことでしょう。

確かに、「シャチ」と「シャチホコ」は、非常に呼び方が似ていますし、昔から語り伝えられている「シャチ」の狂暴な性格から想像した場合、竜頭魚丸の姿をした「シャチホコ」は、「シャチ」のイメージにピッタリとあてはまり、同じ動物と見られても不思議ではありません。

しかし、「シャチ」は、海にすむ哺乳動物で、鯨の形をしていますが、「シャチホコ」は頭は竜の形をしていて、体にはウロコがあり、ヒレがあって、魚の形をしており、まったく違った姿をしています。ところが、昔の人々は我国ばかりでなく、西洋の人々も、海にすむ鯨を魚の仲間と思いこみ、昔の鯨の絵をみますと、体にウロコを画き、姿が魚に似ているものが多いところから、昔の日本人が、「シャチ」の姿として作ったものが、魚の形をした「シャチホコ」であってもおかしくはないのですから「シャチ」と「シャチホコ」は別の動物であるということは出来ません。

たゞ一つ気になるものは、現代のように漁業が栄え、情報網の発達した世の中でさえも、「シャチ」の本当の姿を知る人々が少いのにそれほど昔から「シャチ」が世に知られていたのか？ということです。

そこで、「シャチ」と「シャチホコ」について名前の由来と同じ動物であるのかどうかを、さぐってみることとしました。

まず、現代の分類学上の「シャチ」について専門書をひらいてみますと、哺乳動物、鯨目、ゴンドウクジラ科の動物で、正式な和名は、「サカマタ」と呼ぶが、異名として、シャチ、シャチクジラ、シャカマ、サカマタクジラ、タカ、シャチホコ、クジラトウシ、タカマツなどと呼ばれていると書かれています。

これからみると「シャチ」とは、正式な呼名でなく、世の中で方言的に呼ばれている名前の1つということが出来そうです。

では、昔は、「シャチ」の事をどのように呼んでいたのでしょうか。

江戸時代に、鯨の仲間を学問的にまとめた「鯨の記」(1827年)、「日東魚譜」、「海鰌図」、「鯨之巻画」(1839年）などの本を読んでみますと、「シャチ」のことを「素革埋佗」、「素革埋佗」と書かれていますし、「鯨志」(1758年）などにも「沙加末打」、「タカマツ」などと呼ばれ、その由来は、「沙加末打は、漢の言葉で、戟という昔、強大な武器として使われた矛を逆さに立てたことをいう」と書かれているところから、「シャチ」の大きな背ビレが、この形に似ている為に、呼ばれたもののようです。

これらのことから考えると、昔は「シャチ」のことを現代の正式和名である、「サカマタ」と呼んでいたのが一般的で、「シャチ」とは呼んでいなかったようですが唯一つ、「鯨之巻画」の「シャチ」の画の中に、「サカマタ鯨又は鯱という」と書かれていて、その注に「俗にシャチホコと呼び、略してシャチとばかり呼ぶ」と書いてあります。

とすると、「シャチ」の名前の由来は、「シャチホコ」がもとで、その略された言葉ということがいえそうです。

では、「シャチホコ」の由来は、どこからはじまったのでしょうか。次に、その由来について調べてみることとしました。

まず、昔から語り伝えられているものとして、「シャチホコ」とは、中国では六朝時代から、我国では、桃山、江戸時代のお城のむね飾りとして流行した形式の一つで武士が海の中で最も強い動物であるシャチの強さにあやかろうとして形作ったものである。といわれているものがあります。これからみると「シャチホコ」は、中国にもあったもので、中国文化の影響を受けたものであることが判ります。そこで、中国の逸話及び古文書を調べてみたところ、I）山西省、山岳部の黄河に三段の滝があり、この滝をのぼったコイは、竜となって昇天する（コイノボリの由来）が、その滝にある仏を守っている魚にシャチというのがいた、というお話しや、唐時代の「唐会要」という古書には、II）尾が竜のようで、形は、ワシのような鳥に似ている魚が海にいて、雨を降らせる。だから、其の姿をまねて張り屋根の上におき、火災を防ぐまじないとした、とも書かれています。又、その他、明時代の「本草綱目」という本には、III）魚虎という頭は虎のようで、背の皮はハリネズミのようなトゲがあり人にささり、ヘビのように人にかみつき、年をとれば、サメやクジラに変る、とも書かれています。

これらの逸話、古文書を読んでみますと、どうも、「シャチホコ」は、水にすむ魚をモデルにして作られた空想的動物で、火災予防のお守りということが出来そうです。

以上の色々な事から考えてみますと結論としては、「シャチ」と「シャチホコ」とは、水の中の動物には間違いないようですが、「シャチホコ」は魚の仲間で、「シャチ」は、海の哺乳動物という、まったく別の動物であることが考えられます。そして、「シャチ」の名前の由来は、その性格の狂暴さから想像し、先に知られていた「シャチホコ」のイメージと一致させて、「シャチホコ」にあやかり呼ばれるようになったと考えるのが、正しいようです。

（鳥羽山記）

トピックス

ハマクマノミの産卵

当館の水槽の中で、サンゴイソギンチャクとの共棲で有名な熱帯海水魚のハマクマノミが、6月初旬から7月中旬にかけて4回産卵をし、その間に産卵行動が観察されました。その時の様子は、オスはサンゴイソギンチャクの触手を口でつつき、イソギンチャクを縮め岩肌を広く露出させ、口で岩肌の掃除をしていました。そこへメスが近より、卵を一粒づつ産み、2～3分するとオスが精子をかけ、再びメスが卵を産むというくりかえしが見られました。メスの産卵中、オスの周囲への気の配りようは大変なものでした。産卵は、約1時間で終了しました。現在1回目の仔魚は15mmにも成長し、皆様にお目にかかる日を楽しみに、元気に餌をたべて育っています。

熱帯海水魚の産卵とその成長は、成功例が極めて少く世界的にも大変貴重な観察であったといえます。

（高鍋記）

（ハマクマノミの卵とそれを守る雄）

シーワールドのアニマル達

アザラシ

ここでは、当館で飼育され、皆様の人気の的になっている動物達の特徴や生態を紹介して行くことにしましょう。

まずはじめは、北海にすみ、オトボケがうまいアザラシ君達を訪ねてみました。　アザラシは世界中に18種類がすみ、日本近海にすんでいるものは、ゴマフアザラシ他4種が知られ、主に北海道周辺に生活しています。

形態はオットセイやアシカと似ているようですが、耳は穴だけで首が短かく、後肢が前には動かないといった特徴をもっています。

自然の海では、数頭が流氷にのり日なたぼっこをしていることが多く、大変ノンビリ屋のようですが性質はまったく逆で、大変神経質です。現在当館では、前記5種の内4種8頭が飼育されていて、生活が知られていないアザラシ類について少しでもその生活を知ることができるように、大切に大切に育てています。

（大島記）

（クラカケアザラシのマロ君）